

法令遵守の態度変容を促す物語形式の学習教材の試作

Prototype narrative materials to promote attitude change for legal compliance

大槻 英之* 平岡 齊士** 戸田 真志** 喜多 敏博**
Hideyuki OTSUKI Naoshi HIRAKA Masashi TODA Toshihiro KITA

熊本大学大学院教授システム学専攻* 熊本大学教授システム学研究センター**

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University*
Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University**

<あらまし> 社員向け法令遵守の研修のアンケートに「法令遵守や法令違反の具体例を教えて欲しい」と多くの要望が寄せられた。この要望は、具体例を使った観察学習をする準備が受講者に整ったことの表れだと考えている。そこで法令遵守の具体例を紹介した物語形式の学習教材を読むことで、観察学習による代理強化が促される教材を試作した。短時間で学習する教材なので、短時間でも法令遵守への態度変容が起きる様に、認知的不協和を利用した状況判断テストも試作した。

<キーワード> 企業内教育、技術者教育、人材開発、Web利用、教材開発

1. はじめに

企業に対して法令やコンプライアンスの遵守を望む社会的風潮が高まっているため、法令遵守の研修やコンプライアンス教育の重要度が増している。企業は労働三法や個人情報保護法と言った一般的な法令に加えて、企業の業種に応じて多種多様な法令を守る必要がある。全ての法令とそれを遵守する手段とを研修で学習すると、その量は膨大になる。ある国内の輸送用機器の上場企業1社が製品を設計する際に守る法令や官公庁の通達などの文章量を、表1に示す。

表1 業務で遵守する主な法令の文章量

区分	種類	文字数(400字原稿用紙換算)
法令	31種類	約181万字(約4550枚)
通達等	4種類	約79万字(約1970枚)

表に加えてJISやISOなどの規格、政令や条令、海外で企業活動する場合は相手国の法令があり、更に適宜見直し・都度改定が行われる。よって法令を遵守するには、従業員一人一人が地道にコツコツ漏れや間違えなく法規を確認して遵守する行動を選択しなければならない。そこで本研究では法令遵守の態度の習得を目的とした研修を一部開発したので、報告を行う。

2. アンケートの分析

現在、入社2年目の社員を対象とした、法令遵守の基礎的な知識を学習する2時間の集合研修を行っている。今までの受講者1092名のアンケートを整理した。結果を図1と表2に示す。



1092名分 コメント 777件
図1 コメントの内訳

表2 要望コメントの比率

具体的な紹介	37.8%
講師のスキル	11.2%
設備の不備	9.2%
講義の難易度	8.7%
時間配分	8.2%
教材の不備	6.6%
教材の内容量	6.1%
その他	12.2%

アンケートでは777件のコメントを得られ、その内178件に要望のコメントがあった。その中で最も多いのは「法令遵守や違反に関する具体的な事例をもっと紹介してほしい」と言った要望で、割合は約4割にものぼった。

これは入社2年目の社員にとって法令遵守は絶対に守るべき規範であると理解をしつつも、実際の業務において、どの様に行動すれば法令遵守が出来るか(または法令違反を防げるのか)を予測するスキーマを持ち合わせて無いため、理解を助けるであろう具体例をあらかじめ知っておきたい気持ちがコメントに表れた、と考えている。つまり、受講者は法令遵守を自身の課題として捉えていて、学習する準備が整っていると言える。よって、具体例を紹介した教材が入社2年目の社員に有効であると考えて、教材の試作を行った。

3. 教材の試作

教材は状況判断テストと物語形式の学習教材とを試作した。教材は、JavaScriptコードを含む静的なHTMLファイルや、PHPによるウェブア

プリケーションとして作成している。機密管理やセキュリティの要件によりインターネットを利用できない受講者がいるため、教材はインターネットの Web サーバーに登録した。

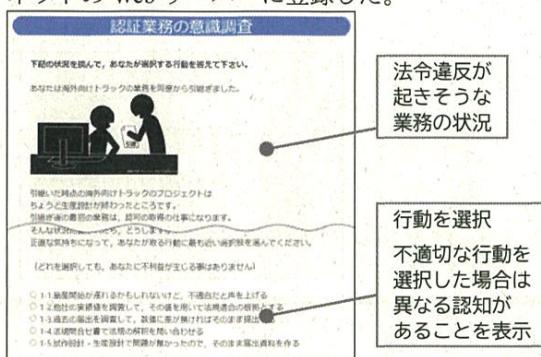


図2 状況判断テスト

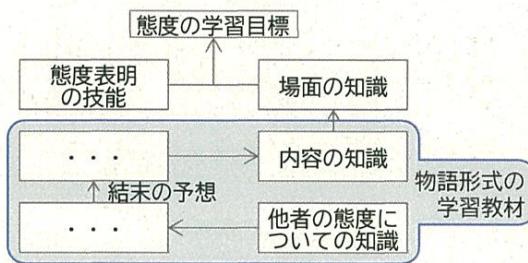


図3 態度の課題分析



図4 物語形式の学習教材

3.1 認知的不協和を利用した状況判断テスト

教材の入口では、法令違反が起きそうな業務の状況を提示し、その状況下で取るべき行動を考える状況判断テストを実施する。不適切な行動を選

択した受講者に対して「本来取るべき行動は違うのではないか？」と画面に表示して、異なる認知が存在することに気づいてもらう。自身が取った行動と、それと異なる認知との間に不協和が生じると態度変容が起きやすい、と報告されている（川口・小尻 2016）。状況判断テストで認知的不協和を感じさせることで、次の物語形式の学習教材で態度変容が起きやすい状態にさせる。

3.2 物語形式の学習教材

知ることは気持ち（態度）を変える一歩になる。そこで物語形式の学習教材では、図3で示した態度の課題分析例（鈴木 2002）にある「他者の態度についての知識」「結末の予想」「内容の知識」について学習する。知識や予想では、アンケートで要望があった法令遵守・違反回避の具体例やその手法を提示する。縦長のホームページに配置された具体例や手法を上から下に読み進むことで、受講者は表示された具体例の観察学習を行うことで、代理強化による法令遵守の態度の習得が促される。

4. おわりに

今後は、紹介する具体例を変えた計4種類の状況判断テストと物語形式の学習教材を試作し、それらの形成的評価を行う。しかし、物語形式の学習教材だけでは、図3に示した態度の課題分析の一部しか学習が出来ていない。そこで図3にある「態度表現の技能」と「場面の知識」を習得させる学習環境も開発する。

この学習環境は、受講者の職場に既に存在する業務計画やOJTの活動に容易に取組みを目標とする。例えば、記述された評価項目に配慮して業務を遂行すれば、法令遵守が担保された業務が自然と実現でき、さらに受講者の評価も行えるループリックがあれば、抵抗なく職場に取り入れて頂けると考えている。開発した学習環境で法令違反を回避する業務を経験し、それにより受講者の法令遵守への態度変容が自己強化される仕組みを開発していく。

参考文献

- 川口直人、小尻智子（2016）生活習慣改善のための認知的不協和理論に基づいた健康知識提示システム. 電子情報通信学会技術研究報告, 15 (492): 221-226
鈴木克明（2002）教材設計マニュアル 独学を支援するために. 北大路書房, 京都, pp.66-68